

## アメリカのナーシングホーム管理者資格授与についての新提案



アメリカ保健教育福祉省社会リハビリテーション部は、ナーシングホーム管理者資格についての新提案をした。いままで管理者資格は、ナーシングホーム管理者自体のグループから管理者資格を授与するという州レベルでの委員会の処理であった。今後は、ナーシングホームの設置基準を連邦レベルで実施させるというニクソンの声明の方向が指向される。その線での一つの提案であるが、管理者自身が委員会のなかで委員の多数を占めることを禁じようとするものである。

同時に、この提案による規制は、資格ある管理者によって、管理基準がまもられている

かどうかの監査を、州・カウンティ・市立の長期療養施設にたいしても及ぼすことをとりきめたものである。

今後は、各種団体代表が、ナーシングホーム改善のための保健教育福祉省の追加的施策についての一層の討論をすることになっている。

Washington Report, hospitals,  
Vol. 45, No. 19, Oct. 1, '71, p. 18.

(前田信雄 国立公衆衛生院)

(12頁から続く)

る。ついでながら、使用者は、他にも私的年金の財源を負担しており、補足的年金の受給者が私的年金を受給する場合には、補足的年金はその一部もしくは全額を減額されることになっている。

補足的年金の支給状況をみれば、1971年6月末現在で、81,600人がこの補足的年金を受給していた。これらの受給者に対する補足的年金の平均支給額は65ドルで、この年金以外に通常の年金が282ドルとなっており、両年金の合計は347ドルであった。ところで、補足的年金の最高は70ドルで、65ドルの平均額はそれに近い水準であるが、これは勤続30年以上の受給者が、総数の83%に当たる68,000人いたからである。勤続30年以上のグループだけでみれば、補足的年金の平均支給額は68ドルで、上述した全体の平均よりさらに3ドル高く、この補足的年金と通常の年金を合計した金額は、356ドルであった。なお、勤続25年～29年のグループでは、補足的年金の平均は53ドルで、この金額は全体の平均をかなり下まわり、通常の年金との合計は302ドルにすぎなかった。

Railroad Retirement Board, *The RRB*  
Quarterly Review, July—Sept., 1971,  
pp.14—19,

(平石長久 社会保障研究所)